

青森県の短命県返上活動

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 特任教授 中路重之

④ 岩木健康増進プロジェクト(BD)

- ① 2000項目の測定
- ② 科学的証拠を把握し短命県返上に活用

① 地域

地域での健康づくり

- ① 37/40市町村で健康宣言
- ② 学校・職域との連携

② 学校

学校での健康教育

- ① 100小中学校で健康授業
- ② 教育委員会・市町村・教育学部と連携

③ 職域

職域での健康づくり

- ① 200の企業が健康宣言
- ② 健康経営認定事業の開始(100企業が認定)
- ③ 健やか力推進センターとの連携

《O12.0
Society 5.0》



青森県の現状と対策

- 日本一の短命県(トップ長野県と2歳半の差)
- どの年代でも死亡しやすい:特に40-60代
- どの病気でも死亡しやすい:特に生活習慣病(がん、脳卒中、心臓病)
- 生活習慣が悪く、健診受診率が低く、病院受診が遅い、通院もわるい
- もっと健康の知識(健康教養)をつけて、健康づくりに取り組むべき
- 全体戦略
 - ①花火: トップの決断(健康宣言など)→システムづくり
 - ②産官学民の連携+地域・職域・学校での実施
 - ③根の張った動き:仲間づくり(リーダー育成)
 - ④経済活性化・少子化対策(町づくり、地方創生)との連携

市町村健康宣言 (37/40)

首長が前面に立つことで全体的な取り組みになる

- ①健康リーダー育成
- ②学校での健康教育強化
- ③健診受診率向上、など



活発化する企業(職域)での取り組み



▲ 青森銀行健康宣言

▼ 北星交通健康宣言

青森県健康経営
認定制度 (H29)
健康宣言約200社
認定企業約100社



▲ ▼ みちのく銀行健康づくり研修



小中学校での健康授業(教育)の展開

(例) 中南地区連携推進協議会：平川市立猿賀小学校(6年生)

平成29年度は
約100小中学校で実施

9/29 (火) 13:15~14:00 第1回公開授業 特別活動 研究協議会	9/29 (火) 14:15~15:00 第2回公開授業 体育科 (保健領域)	10/5 (月) 午前 第3回授業 体育科 (保健領域)	10/13 (火) 14:05~ 第4回授業 体育科	10/15 (木) 14:05~ 第5回授業 体育科	10/16 (金) 11:20~ 第6回授業 体育科
なぜ青森県は 短命県？	生活習慣病って どんな病気？	生活習慣病の予防 について考えよう	運動プログラムを 作ろう	運動プログラムを 完成させよう	短命県を 返上しよう



年度	学校	回数
平成26年	A小学校	全5回
平成27年	A小学校	全4回
	B中学校	全4回
※平成28年度 は11校予定	C小学校	全4回
	D中学校	全4回
	E中学校	全6回



良い習慣 小学生のうちに
健康テーマに公開授業

猿賀小で初めて実施

中南地区連携推進協議会

健康な生活習慣を
子どもたちに伝える

健康な生活習慣を
子どもたちに伝える

平成27年10月1日 (木) 東奥日報 (21面)

健康な生活習慣を
子どもたちに伝える

健康な生活習慣を
子どもたちに伝える

平成27年9月30日 (水) 陸奥新報 (4面)

【平成27年3月25日】
教育委員会・教育学部・医学研究科 連携協
定

岩木健康増進プロジェクト:大規模住民合同健診

※医師を中心とした**総勢200~300名程度**が連続10日間(AM6:00-PM3:00)実施:岩木地区

※健(検)診受診者:20~**93歳**。1人あたり健診所要時間は**5-7時間**(小・中学生も別途実施)

<平成28年度実施概要>



	被検者		検者		
	参加者数	医師	健幸 リーダー	大学スタッフ, 学生	COI 参画企業
5月28日	100	40	32	80	46
5月29日	120	40	29	80	46
5月30日	115	40	32	82	46
5月31日	115	40	34	83	46
6月1日	114	40	34	85	46
6月2日	119	40	31	113	46
6月3日	108	40	29	98	46
6月4日	110	40	33	78	46
6月5日	129	40	32	79	46
6月6日	118	40	28	92	46
合計	1,148	400	314	870	460

※13年間実施し延べ**約2万人**以上

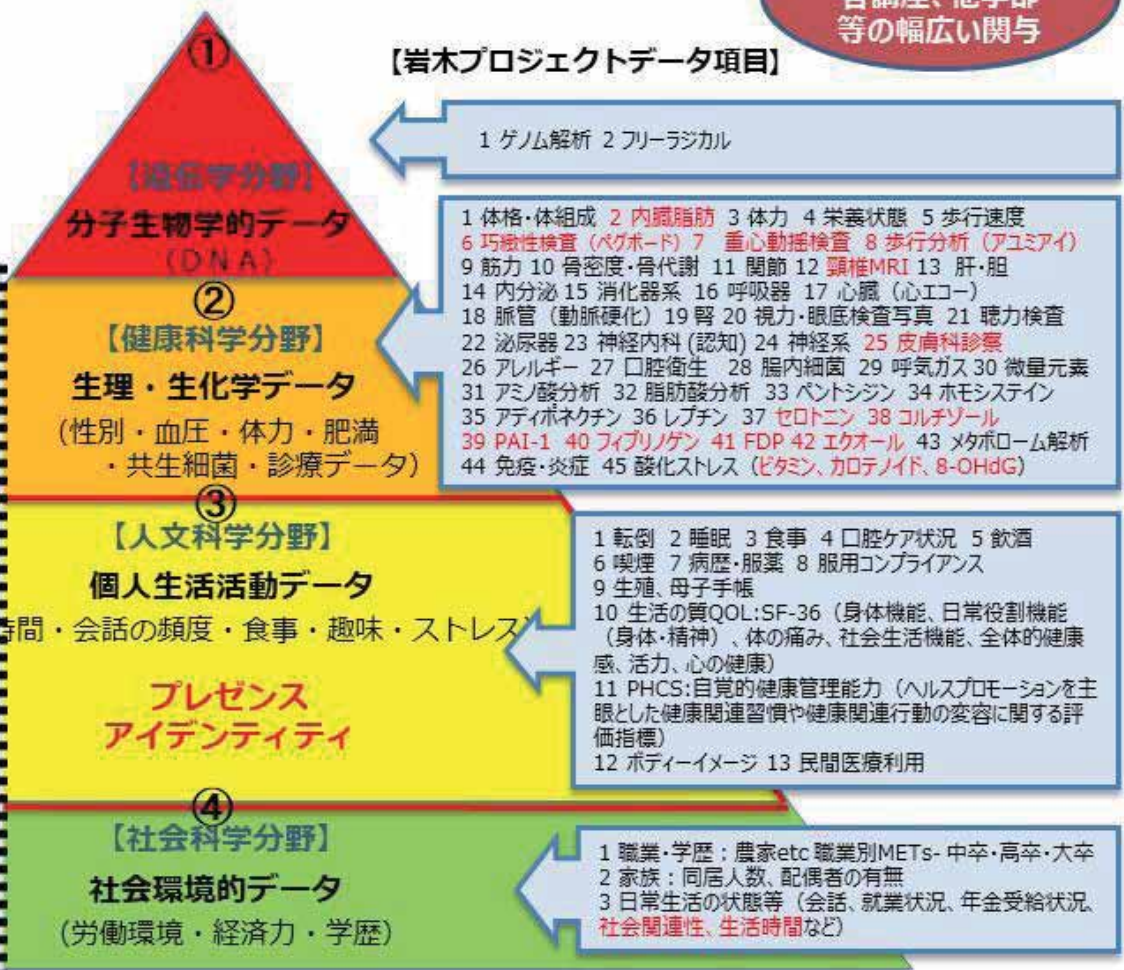
岩木健康増進プロジェクトのビッグデータの全体像

分野の垣根を越えた
多因子的解析を可能にする網羅的データ

ほぼすべての関係者が集結できる
医学部各講座、他学部、他大学・研究機関、公的機関、企業、自治体、市民

医学部
各講座、他学部等の幅広い関与

※一つの測定項目と他の2000項目との関連性が検討できるメリット。
例)1000名の腸内細菌データだけでは大きな意味を持たないが、600項目との関連性ではイノベティブな知見をもたらす。
⇒ 性、年齢、肥満、体格、体力、動脈硬化、喫煙、飲酒、食生活、運動、便通、口腔内細菌、口腔環境、ピロリ菌、認知症、糖尿病、高血圧、アレルギー、肝機能、腎機能、心機能、肺機能、睡眠、微量元素、呼気ガス、免疫能、ストレス、ロコモ、メタボ、好中球機能、リンパ球、サイトカイン、ビタミン、ホルモン、脂肪酸、アミノ酸、服用薬剤、泌尿器疾患等との関係が明らかになる。

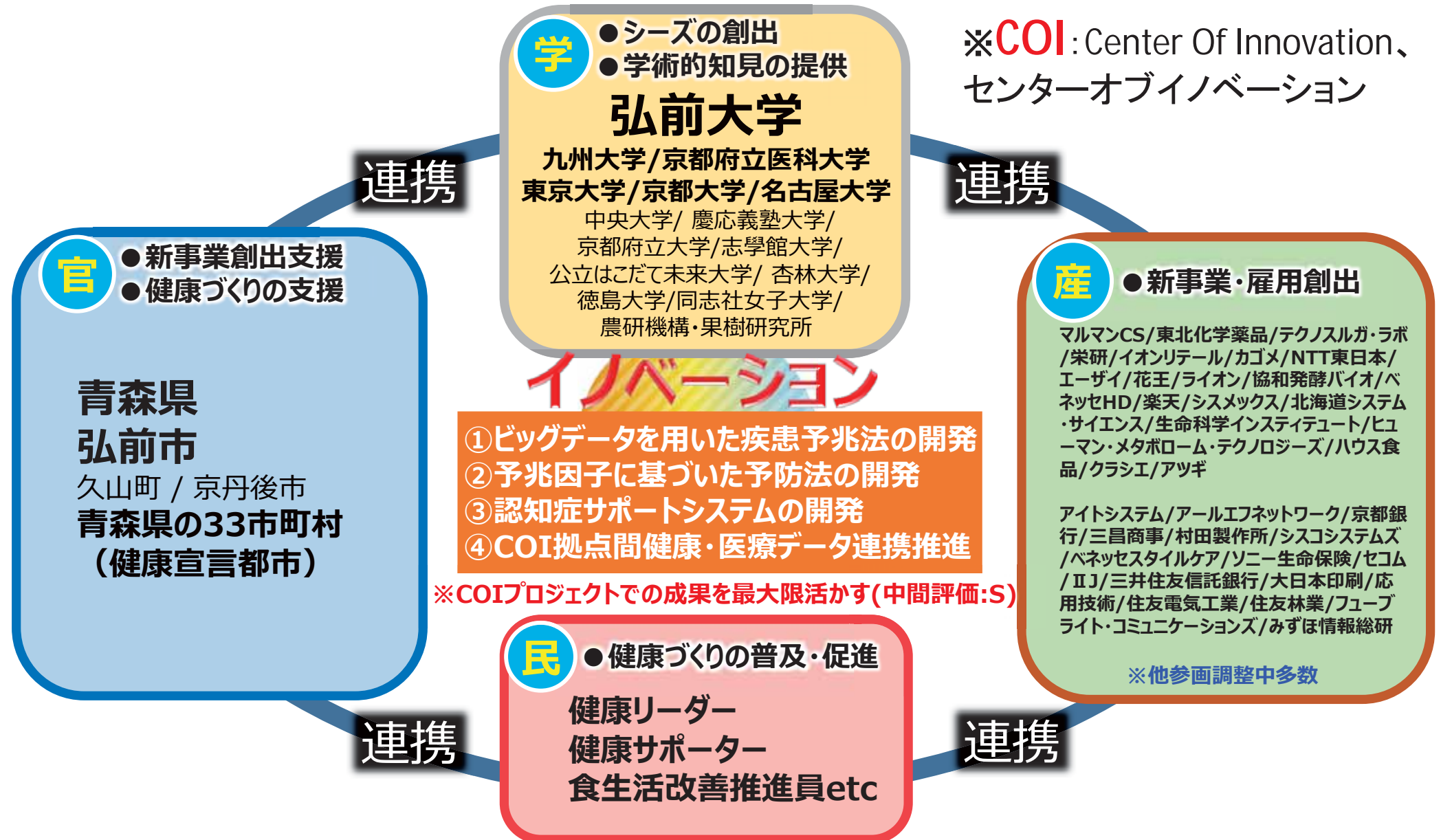


※岩木ビッグデータではひとりの人間の分子生物学的データから社会環境的データまでをすべて関連づけた網羅的解析が可能

産・学・官・民連携による強力な推進体制を構築

継続的、自発的に多種多様なイノベーションを生み出す『COI拠点』をめざす

〈弘前COI：「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」〉



(注)弘前COI拠点全体の参画企業・機関すべて含む

弘前大COIをコアとした戦略的拠点間連携の拡大

《データ連携機構PJ》

大学間(データ)連携の拡大イメージ

弘前大学
×九州大学
×京都府立医大

×名桜大学 (沖縄) **新規**

×和歌山県立医大 **新規**

立命館大学

順天堂大学

筑波大学

他のCOI拠点

他機関